

Special Interview

音月桂

Otozuki Kei

変化を受けとめ成長し続ける、 パワフルなフェミニンさ

その場に現れたとたん、空気がパッと明るくなる。「華のある女性」という形容がぴったりな、音月桂。

「小さい時から、人を楽しませることが好き。パレエの発表会が舞台で演じた最初の体験。宝塚歌劇団を初めて見たときに、感動して鳥肌が立って、不思議に「明日から、私も頑張ろう！」って気持ちになったんです。私もそういうものを発信できる人になりたい、と思いました」。その宝塚歌劇団で、男役トップスターとして活躍。2013年から女優としてのキャリアをスタートさせた。

「もう、毎日が研究です。舞台だと全身を使って喜びも悲しみも表現しますが、映像だと視線一つで表情もがらりと変わってしまう。休みの日にも、次の仕事の本を読んでいるような努力家タイプ。でも、切り替えも鮮やか。「今までは役づくりに集中しただけ、これからはいい意味で人に委ねたりしながらやって行きたいですね」。ファッションやメイクの幅も広がった。撮影当日の衣装は、ふんわりした白のミニワンピース、ピンクのネイルとハイヒール。スッと通った背筋に甘さが寄りそう、音月桂ならではのフェミニンなスタイルを見せてくれた。

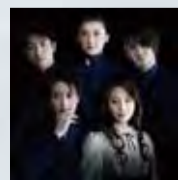
「実は最近、ピンクも好きだと気がつきました。逆に、「女性だからピンク」という思い込みもなくなったと思う。これからは、素に近い自分もさらけ出して演じることも求められると思いますが、いったんさらけ出したら、怖いものはない。いま、殻を破っている最中です」。

一度確立したスタイルに安住せず、変わって行く自分もしなやかに受けとめ、次のパワーにしてゆく。そして、女優として演じる役も、とことん楽しんでいる。来年公開の映画「種まく旅人 くにもみの郷」では子連れのバツイチ女性、大島ハルを演じた。「まだ結婚もしていないのに、子供もいる女性の役を演じたんです。経験したことのない人生を生きて、演じることの醍醐味ですね」。

見ていると、「私も頑張ろう！」と思えるパワーがもらえるような…音月桂は、そんなかつてないスケールとスタイルを持った女優像に向かって歩み出している。

ミュージカル「ブラック・メリー・ホピズ」

7月5日～7月20日 世田谷パブリックシアター
1930年代、豪邸の火事から、養育係のメリーに救い出された4人の子供たち。その後、別々の人生を送っていた彼らの元に、当時の事件の真相が記された手帳が届く。歴史の渦の中、繰り広げられる心理スリラー。
公式HP www.m-bpp.com/



Profile 1980年 埼玉県出身。2010年宝塚歌劇団雪組トップスターに。2012年退団後、2013年より女優としてドラマ、映像を中心に活躍。映画「種まく旅人 くにもみの郷」(2015年公開)に出演。好きなデニッシュは「ショコラ・ショコラ」。

stylist: 藤千尋 (es-quisse) hair make: NOBU (roraima)
ライター: ジョナサン・ベージュ、デザイナー: ナオキ、フォトノース・グループ(全てAIX ARMANI EXCHANGE / AIX アルマーニ エクスチェンジ 新宿店)、ピラス、ネックレス(ともにアビステ / アビステ)
問い合わせ: AIX アルマーニ エクスチェンジ 新宿店 ☎03-5368-2757 アビステ ☎03-3401-7124 web: www.abiste.co.jp



Radio

「かわいい京都×伝統」special

この春、長年親しんだ花街・祇園を離れ、新しい一歩を踏み出したMAKOTOさん。次なる夢に向かってポジティブに進む、彼女の「今」をインタビュー



京都・祇園の芸妓「真琴」、シンガー「MAKOTO」として、二つの顔を持ちながら長年パワフルに活動を続けてきた彼女が、先頃、芸妓を引退し、新たなスタート地点に立った。トレードマークの瞳は変わらずキラキラ輝き続けているものの、より穏やかで、リラックスした表情。「花街では、お稽古もお座敷も常に真剣勝負の世界。自然と気が張っていたのかも。でも、精一杯がんばれたと思うから、悔いはありません。今は育ててくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいなんです」。そんな彼女の新しい目標の一つは、音楽活動をより充実させていくこと。2001年のメジャーデビュー以来、ジャズや R&B を歌い続けてきた中で出会ったのが、「BGMのように場にとけ込んで、人々に寄り添う音楽」。若いときは、パワフルな歌声にこだわっていたが、多くのお客様、ミュージシャンとの出

会いが彼女を変え、自然と肩の力を抜いて歌えるようになったそう。新たな活動としてスタートした、人気ギタリスト小倉博和さんのユニット「オグゴト」では、最高に心地いい「癒しのサウンド”を届けてくれる。そしてもう一つのMAKOTOさんの目標が「京都を伝える」こと。ラジオの DJのほか、テレビレポーターとして、地元京都の PRにも挑戦中。花街での経験も生かしながら、観光名所や職人さんの魅力を自分の目線とコトバで丁寧に紹介する。もちろん、アクティブな活動を続ける一方、プライベートも充実。「今はインテリアに凝っていて、休日は雑貨屋さんめぐりが楽しい！」とニコリ。「今」という時間を楽しみ、自然体で過ごす MAKOTOさん。そんな彼女が、音楽やコトバを通じて発する温かなメッセージに注目したい。

Sweet'n marble lovers



αSTATION FM KYOTO (89.4MHz)
●毎週日曜日 19:00～19:30
DJ: MAKOTO

MAKOTO目線で選ぶ “大人カワイイ” 京都の和雑貨

着物生活が長かったこともあって、「モダンな和雑貨に目がないうです」と話す MAKOTOさん。ちょっとしたメッセージを伝えるメモ帳やポストカードは、お付き合いの多い彼女には特に欠かせない。「贈り物に添えてもよろしおすえ」。



上左、中央、ひと言メッセージを書いて、一筆箋代わりにしてもオシャレ。小袖メモ「草花吹寄せ」1枚各400円(税別)。上右：友禅の着物の柄をアレンジしたポストカード120円(税別)。下：便箋として使える便箋各20枚入り400円(税別) グランマール直営店にて9月から販売(データは1/13)
*店舗によって取扱アイテムは異なります。



こちらは、MAKOTOさんの私物。コスメケースとして愛用中のがま口ポーチ。「ハルピンクがマイブーム、使う度に安心が弾みます」。ゴールドの宝玉も「大人カワイイ」ポイント。
*販売はしていません。

MAKOTO

Profile 祇園町の芸妓出身のアーティスト。新しいフィールドで、芸能活動をますますパワーアップ中。好きなデニッシュは「くみりキャラメル」。

AFTERNOON DELIGHTのパーソナリティー、MEMEさんに聞いた 心に届く、メッセージの伝え方

「リスナーの気持ちを考えながら、想像力をふくらませて語ります」

FM COCOLOの番組 AFTERNOON DELIGHT「Blooming heart」DJのMEMEさん。透明感があがりながらスツと心に届く語り口で人気です。彼女独特の、ハートウォーミングなトークはどんな風にも生きたのか？ その背景をお聞きしました。「私は両親が華僑、親戚や知り合いが海外に住んでいるという多国籍な環境で育ちました。父がモダンジャズ好きで、兄と一緒に早くから洋楽を聞いて、音楽への思いが強くなりましたね。転機になったのが阪神大震災のとき。被災地で困っていた外国人のために14か国語で放送されたラジオ局 FM COCOLOの立ち上げに、DJとして参加しました」。以来、約20年間、リスナーを癒す、あたたかなトークのスタンスは変わらない。「開局当時から変わったのは選曲ですね。局のテーマである“大人のためのミュージックステーション”を意識して、'60～'90年代の名曲をかけていますが、それが「懐

メロ」に聞こえないよう工夫しています。朝起きたら、その日の天気や湿度なんかを感じながらフィーリングにピッタリ来る曲を選びます。懐かしい曲をいかに「今」とシンクロさせてお届けできるかを考えながら、曲を紹介しています」。トークをするとき、最も大切にしていることが、自然体であること。「同時に、リスナーの反応も想像してお話します。いい状態でメッセージを伝えるには、自分の気持ちがポジティブであることも大事。何かに行き詰まった時には、考えを書き出して整理して、頭をクリアにします。でも、たいいオンエアの前夜はイヤなこと忘れて、次の日、またマイクに向かうのが楽しみで仕方ないんですけどね」(笑)。

AFTERNOON DELIGHT

●毎週月曜日～木曜日 14:00～17:00 DJ: MEME
Blooming heart (15:00～15:10)
曜日ごとにバラエティにとんだ話題を“真心をかたちに”をテーマにお送りしています。木曜日はリスナーからのメッセージをご紹介します。



MEME

Profile 神戸出身。最近水泳にハマって、泳いでいる間、「無」になるのが何より楽しみ。好きなデニッシュは「京の秋味」。